

自動運転実用化へ連携

東北大や仙台市 技術実証進める

東北大学と仙台市、宮城、東北経済連合会は自動運転車などの実用化を進める「東北次世代移動システム技術実証コンソーシアム」を設立する。18日に仙台市内で発起人会を開く。

コンソーシアムでは東北大や仙台市、関連企業などが連携し、自動運転や自動飛行技術の研究開発、拠点の整備などを行い、普及を進めていく。

仙台市は昨年8月に国家戦略特区に指定されており、自動運転車など近未来技術実証に関わる規制改革の取り組みを進めてきた。

自動運転技術に関して、仙台市の特区制度を利用して東北大キャンパスや市内の過疎地域などで技術実証を進める方針だ。高齢化が進む東北の過疎地域では、路線バスなどに代わる高齢者向けの新たな交通システムが求められており、自動運

転車の活用も期待されている。

産学官の連携を強めて人口減など東北の地域課題に取り組むほか、自動運転車などに関連する新たな産業を生み出し、雇用の創出なども目指す。

4.28.8.16 日経33 東北経済